（様式）提出用

園番号　８０７

令和５年度　奈良市立都南保育園　研究実践概要

園長名　　堅尾　清子
全園児数　　４４名

１．研究主題　　『やってみよう、おもしろい、もっとやってみたい』
～主体的・意欲的に遊ぶ子どもをめざして～

２．研究年度　　初年度

３．研究主題設定理由

子ども達は、園庭や室内で好きな遊びやしたい遊びを見つけて楽しむ姿があるが、すぐに飽きたり保育者が一緒でないと遊びが続かないという姿があり、繰り返し遊び、遊び込むという姿にはつながっていない。子ども達が自ら『やってみよう、おもしろい、もっとやってみたい』と感じ継続して遊びを楽しむ環境を構成するためにこの主題を設定した。

４．具体的な研究内容

①研究のねらい

・豊かな環境の中で『やってみよう、おもしろい、もっとやってみたい』と主体的・意的に遊ぶ子どもを育てる。

②研究の重点

・0 歳児から 5 歳児までの発達を理解し、乳幼児期へのつながりのある保育をすすめる。
・職員間で連携をとりながら、子どもが主体的・意欲的に活動できる環境や援助のあり方を工夫する。

③活動の方法

年度初めに、各クラスの子どもの姿や課題を出し合い今年度の研究主題について話し合った。毎月の乳児組会議・幼児組会議の中で環境について話し合う機会を設定し、子どもの遊ぶ姿から、園庭環境や保育室環境について見直し、主体的・意欲的に遊ぶことが出来るよう再構成した。

０歳児

子どもの遊ぶ姿から、興味や関心のある遊びを把握し、発達年齢に応じた遊びができるよう環境を整えた。A 児は体を動かすことが好きで、トンネルをくぐったり、坂道を登ったりして楽しむ姿が見られた。十分に力を入れて遊べるように、車に見立てた手押し車を用意したことで、力いっぱい押して十分に遊ぶことができた。次第に手先を使った遊びに興味を持ち、ポットン落としや型はめ遊びを始

めた。保育者が側で見守り遊び方を知らせたり、一緒にやってみることで、同じようにやってみようとしたり、自らいろいろな遊び方を楽しむ姿が見られた。

保育者と一緒に遊びを繰り返したり、言葉や表現、イラストなどで伝え一人一人に丁寧に関わっていく事で、安心して過ごし、意欲的にいろいろな遊びを繰りかえす姿につながった。

１歳児

園庭に落ち始めたドングリに気づき、拾っていた子ども達。拾うことに夢中になっている A 児が自分の散歩バックに溢れそうになるまで、沢山指でつまんでいれた。側で一緒に拾いながら、「いっぱいだね～」と手のひらのドングリを差し出すと、指でつまんでバックにいれ、また拾い始めた。

沢山集めることを楽しむ中で、指先の発達も感じられた。大小様々なペットボトルや、ボウルに入れたドングリを使って、ゆったりと遊べるようにシートなどを用意すると、指で摘まんで、一つずつ夢中になって入れたり、入れたドングリをペットボトルを逆さにして出したりを繰り返したり、それぞれがドングリに触れ、楽しむ姿があった。数個ドングリを入れたのを「みて」と嬉しそうに見せてくれたので、「いいね～ドングリ入ってるね」と応え、少し振ってみると、音が鳴り「わぁ～」と笑顔を見せた。「音がなるね！」というと、自分でペットボトルを振って確かめていた。側にいた子どもがそれに気づき真似て振って確かめる姿も見られた。

保育者との安心できる関係のもと、遊ぶ中で子どもの表情や声の表出を見守り、その時の子どもがイメージしている物事を感じ取り、環境を整えたり、応答的に関わることで、自発的、意欲的に物事に関わることが出来た。子どもの思いを感じながら、保育者と一緒に楽しい時間を過ごすことで、興味が広がり、周囲へと関心が広がった。

２歳児

一人一人が好きな遊びを見つけ、満足するまで遊ぶ楽しさを十分に感じてほしいと思い環境を整えた。まずは体を十分動かすことで満足するのではないかと考え、プレイルームで喜んで跳んでいるトランポリンを部屋に用意した。保育者が側で数を数えながら見守り、十分に跳んだ頃を見計らって「交代するよ。」と声をかけると、満足した様子で、トランポリンからおりるようになった。体を使い十分に体を動かすと気持ちも落ち着き、自分の好きな遊びを見つけ、少し落ち着いて遊ぶ姿が見られた。それと共に、一人一人の興味や関心のあること、好きな遊びを考えながら環境も見直し、机上遊びのコーナーに、粘土やシール貼りなど用意し、マジックや紙などの用具を十分に用

意し、自分が好きな遊びをしたいタイミングでできるようにすると、自ら遊びを選び、満足するまで楽しむ姿が見られるようになってきた。

保育者が一緒に遊ぶ中でイメージや楽しさを共感し、言葉をかけることで安心して遊び、楽しさを共有することができた。また、子ども達が遊びに集中することで、部屋全体も少しづつ落ち着いた雰囲気になってきている。

３歳児

A 児は、友達との関わりややり取りを楽しむ姿はあるが、自分の思いを主張する気持ちが強く、思いが通らないと遊びを中断してしまう姿が多かった。フルーツバスケットなどのゲーム遊びをする時、勝ちたい気持ちが強い A 児は「やらない」と言って部屋の端に座って応援しながら見ていることが多かった。A 児の気持ちに寄り添いながら、A 児にも友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じてほしいと思い、A 児に「何バスケットならしたい？」と聞くと「まゆげバスケットがいい」と言ったので、『どんなまゆげにしたい？』等聞きながら、その場で絵をかいたりルールを決めたりしながら遊びをつくっていった。すると、いつもはあまりゲーム遊びに興味を持たない子どもも意見を出して楽しみに待つ姿が見られた。その後も「ねこバスケットしたい」「くるまバスケットがいい」など色々なアイデアが出てきた。「まゆげクイズも楽しそう」など、新しい遊びも発案されみんなで楽しむことができた。

４歳児

進級時より工作に興味を持っていたので、夏頃よりいろいろな素材を準備し、つくりたい時に、自由に工作ができ、楽しめる環境を整えた。

始めは、自分の思い描くものをつくろうと工夫しながら楽しんでいたが、しばらくすると友達がつくっている物を見て、うらやましくなり、「先生、〇〇ちゃんがつくっているものと同じのをつくっといて。」と保育者にすべてを任せようとする姿が増えてきた。そこでサークルタイムの時などに「どうすれば、同じものがつくれると思う？」と投げかけてみた。「『どうやってつくるん？教えて。』って聞いたら教えてくれるんちゃうかな？」と言う意見がでて、「ほんまや！そう聞いたら教えてあげることにしよう。」と賛同の声があがった。その日から「どうやるん？」「ここ、くっつかへんねん。教えて。」と言う会話が増え、一人で悩んでいる姿を見つけると「どうしたん？手伝おうか？」と声をかけている様子も見られるようになり、共同でつくろうとする姿に繋がった。

5歳児

「やってみたい」「やってみよう」と意欲や主体性を引き出す為に、経験のしたことのない遊びを多く取り入れた。トイ遊びでは、ジャングルジムから砂場に水が流れるように、トイのつなぎ方や高低差、角度などを微調整し、繰り返し工夫する姿があった。また、流れた水を池のように溜めたり、そこから新たに水路をつくり水が流れていくことを楽しむ姿があった。うまく流れずイライラしてしまう子もいたが、保育者が子どもの気持ちに寄り添いながら一緒に試行錯誤することで諦めずに挑戦する姿が見られた。

また、遊びを継続することで味わえる達成感と小学校に向けて姿勢の保持ができるように、毎日サークルタイムの前にリズム遊びを取り入れた。子ども達は体を動かすことが好きなので、毎日継続することができ、子どもから「〇〇したい」とリクエストができるようになってきた。部屋にボールや縄を用意することで、「縄」を綱引きや縄とび等使い方を自分達で考え、友達を誘って遊ぶようにもなった。『できるできないよりも「やってみる」ことが大事だよ』と繰り返し伝えていくことで、「できない」と諦め、「できないからしない」と言っていた子も挑戦するようになり、できる喜びを感じながら様々な経験を重ねることができた。

５．研究の成果

乳児組では、保育者との一対一のゆったりとした関わりを大切にし、応答的に関わることで、子どもが安心して遊ぶ姿につながった。また一人一人の興味や関心に目を向け、環境を整えることで、自ら遊びに向かったり、繰り返し遊ぶことができた。

幼児組では、『毎日積み重ねる事』や『やってみようと思ったときの気持ちに寄り添う事』を意識しながら、環境を整えたり援助したりすることで、子ども達がそれぞれの遊びを楽しみ、諦めずに最後までやってみようとする姿につながった。

６．今後の課題

『やってみよう、おもしろい、もっとやってみたい』と主体的・意欲的に遊ぶ子どもを目指し、環境を整えたり援助の仕方を工夫することで、子ども達の遊びに変化が見られたが、遊びの場の環境構成等、継続することが難しかった。乳児会議、幼児会議の内容を活かし実践していけるよう、次年度は年度当初に職員間で共通理解すると共に、年間計画を立て定期的に振り返りながら研究を深めたい。